

廃寮粉砕！  
闘争勝利！

ストーム！

吉田寮通信  
11号

# 学生の命で出世をはかる 建本(学部長)・沢田(総長)を糾弾し、 文学の警察支配を断固阻止せよ！

10月27日、吉田寮熊野寮主催による廃寮阻止全学集会が、教養部正内前におよそ30名の学友寮友により、2克ち取られました。これは10月12日学生部が廃寮化をも含めた「本学の学寮内題について」となる文書を寮生との話し合いをなす「三三」方針に公表したことに對し、方針撤回と話し合いを要求して開いたものです。この時学部長及び職員は逃ししと姿も見せないばかりか、警察権力を使つて集会后のデモ行進中の学生に襲いかかり、非道なテロリンチを加えた上、舗道上也歩いていた寮生一名を不当にも逮捕したのです。罪名は道交法違反、京都府交安条例違反とすが、舗道上也歩いている人間に適用すべき口ずめなく、学生部・権力一体と

なり、寮斗争の圧殺を狙つた卑劣な弾圧に他ならない事は明らかです。(事実寮友は拘留尋問されることもなく3日後に帰還されました。)このような卑劣な弾圧に抗議すべく寮友学友は再び学生部に行き神野学部長との面会を求めましたが、彼等は逃げ隠れして一切誠意ある対応をしませんでした。二に学友の怒りが爆発し施設の一部が破損する事態も起きました。しかし再三の話し合い要求を無視し寮生から逃げまわつていた学生部は自らの態度を恥じ学生との建設的な解決を模索するのでもなく、先の寮友逮捕と同様、二も寮生を管理圧殺のための警察権力を使ったに利用してまわりました。

## 不当捜索とテロリンチで 寮友2名重傷！ その他重傷者多数

学生部は事柄に固執した準備を重ね、前日にも学生部委員会を崩して寮生学生の抗議を暴行事件とし、警察との密接な連絡のもとに29日早朝、東学館文学部自治会Box、尚賢館熊野寮にとりこみ多数の機動隊をひきよめこの不当捜索を行いました。当該事件についてこの現場検証と捜索後に行われたことを見てみると(現場検証による事実確認もななく捜索が行われることと全く不当である。)二が事件捜査等もなく、単に自治会動員が目的である事は明白です。また捜索を行う場合には事前に学生部から電言と連絡しなくてはならないにもかかわらず、

現在この警察の乱入とは同時に通告を  
しますし、警察に好き勝手なやり方で捜  
索させないためにかわされた。「必ず  
学生から立会人を出す」というとりき  
りも破棄し、学生部長、学生部取組が立  
会人として警察の片棒をかついでいる有  
り様です。これについて学生部長厚生課  
長飛弾は、「捜索は警察が自主的にやる  
もので学生部は警察から捜索の連絡をつ  
けるだけだ。学生部が捜索のある事を  
警察から通告されるのは捜索開始直前な  
ので、とらまえて捜索について学生部は何  
も知らないし、学生に通告するのも直前  
になる」と言っています。当日朝7時  
ごろ立会人として警察と共に乱入した学  
生部委員の曾我（工学部）の家は神戸で  
す。「捜索直前に警察から知らされる  
はずの通告ごんごんや、神戸から飛ん  
で来るのか」といふ我々の追及に対し  
厚生課長飛弾はしどろもどろにならざる  
を得ませんでした。このことから、学  
生部と警察が日常的に連絡をとりあひ

生弾圧に目を光らせていることは明らか  
です。熊野寮の捜索においてこの国営暴  
力団機動隊の暴行により寮生が多数負  
傷し、そのうち一人が頭部に重傷を負い  
その一人は頭がい骨損傷を意図不明の重  
体に陥りました。このような暴行を導  
く学生部を許すことはできません。  
特にこの級戦犯、B級右翼、A級全権総長  
又田（学生との話し合いを破棄し、78年  
4月20文部次官通達に基づいて警察、大  
学との協力関係を築いた張本人）と、彼  
の庇護のもと異例の昇進をとげ、京大の  
寮つぶし、寮生の生活破壊によって本省  
勤務の出世を夢見る学生部次長建本と  
して同じく岡山大学でのサークル棟自治  
破壊の功を買われ京大でも自治寮つぶし  
に奔走する厚生課長飛弾らを怒りをこめ  
て糾弾します。学生部、当局が警察と  
の協力体制の中で日常的に学生を監視し  
弾圧していること、私服刑事が日常的に  
学内で学生生活を監視していること、寮  
の集会以機動隊が学生にあらん限りの暴

行を加えて寮友を傷つけること等ひとつ  
ひとつを告発し、このような大学に監獄  
化の動きをまさに全学のカギをたたきつづ  
し、この京大に警察権力をよせつけない  
陣型、学内内題は主体的に解決する陣型  
を築いていこうとありませぬか。

■ 学生部は過去、現在の警察権力との  
関係を全学に明らかにした上、こ  
れを断ち、10、21全学集会ととら  
まえて、  
続く不当弾圧を自己批判せよ。

■ 学生部、権力の緊密な協力体制に基  
づいてなされた弾圧によって、その名が  
不当逮捕の、頭部損傷により意識  
不明となった、たが名を含ま多数の負傷  
者を出したことに對し、自己批判せ  
よ。

■ 警察からの通告は速やかに学生に伝  
え、学生も立ちあがらせるといふ取り  
きりも厳守せよ。